

また、積極的勧奨を差し控えていた間に定期接種の対象だった平成9〜17年度生まれの人で接種機会を逃した人は、4月〜令和7年3月末までの3年間に於いて定期接種を受けることが可能となりました。

引き続き、HPVワクチン接種の有効性及び安全性などを理解した上で接種をご判断ください。ワクチンの有効性・安全性に関する情報など

子宮頸がんは若い世代の女性のがんの中で多くを占めています。HPVワクチンの接種により子宮頸がんの原因となるHPVの感染を予防することができます。

HPVワクチンは、国の通知により、平成25年6月から積極的な勧奨が一時的に差し控えられていました。国において安全性について特段の懸念が認められないことが確認され、接種による安全性が副反応のリスクを明らかに上回ると認められたことから、令和4年4月から積極的勧奨が再開されました。

は、町ホームページに厚生労働省のリーフレットを掲載しています。

費用 無料

対象者

①小学6年生〜高校1年生相当の女子

②平成9年度生まれ〜平成17年度生まれの女性(定期接種として接種できる期間 4月1日〜令和7年3月31日)

※①のうち中学1年生と高校1年生と②の対象者に個別勧奨通知を順次送付します。

健康・保険課 保健予防係 ☎(232)4912

子宮頸がんを予防するためのHPVワクチンに関するお知らせ
積極的な勧奨が再開されました

新型コロナワクチン接種情報
(4月15日時点)

菊陽町新型コロナワクチンコールセンター ☎(234)7077 詳しくはこちら→



4月下旬から、12〜17歳の人の追加接種(3回目)を開始しました。最新の情報は、町ホームページでご確認ください(ページ右上のQRコードからアクセスできます)。

12〜17歳の人も追加接種(3回目)を受けられるようになりました

対象者には、4月8日に接種券を送付しました。案内通知をよく読んで、お子さんと一緒にご確認ください。

◆新しく追加された対象者

原則、町内に住民登録のある12〜17歳の人(接種日時点)で、2回目接種を終了した人。

基礎疾患がある人などの「重症化リスクが高い人」は、特に接種をお勧めしています。接種についてあらかじめ「かかりつけ医」などとよく相談してください。重症化リスクが高い基礎疾患名は、右記QRコードから、厚生労働省「新型コロナワクチンQ&A」をご確認ください。



厚生労働省ホームページ

◆使用するワクチン ファイザー社製

◆接種間隔 2回目接種日から6カ月経過した日以降可能

! 注意

- ◆他の予防接種を、新型コロナワクチンと同時に接種することはできません。
- ◆新型コロナワクチン接種の前後2週間は、他の予防接種はできません。

◆保護者の同伴が必要な場合があります

18歳以下(高校3年生相当)の人が接種するときは、保護者の同伴が必要です。ただし、以下(1)(2)の両方を満たす場合は、保護者の同伴は必要ありません。

(1)接種について保護者が説明書を読み、予診票に保護者が自ら署名し、接種に同意している。

※16歳以上の人は、接種する本人が署名してください。

(2)接種する人の健康状態をよく知る親族が、保護者に代わって同伴できること。

※同伴者は、保護者が記入した委任状を持参してください。(委任状についてはコールセンターへお問い合わせください。)

◆12〜17歳の人接種したときの副反応

米国では、2回目の接種後と同様の症状が、同じ程度かやや高い頻度で現れると報告されています。

12〜17歳の接種後7日間に現れた症状

報告割合	接種後の症状
50%以上	注射した部分の痛み、疲労、頭痛
10〜50%	筋肉痛、発熱、悪寒、関節痛、おう吐前のむかつき、注射した部分の赤み・はれ
1〜10%	腹痛、痒み、下痢、おう吐、発疹

出典：厚生労働省ホームページ

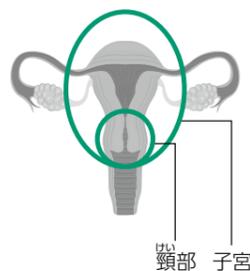
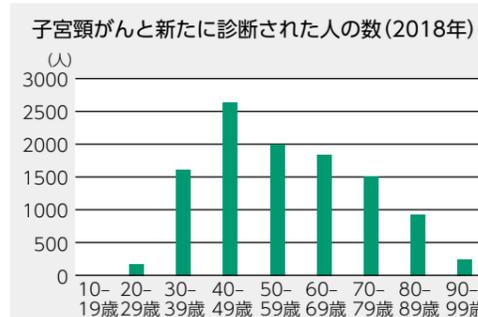
ごくまれですが、心筋炎の発症が報告されています。

米国では、3回目接種後の方が2回目接種後よりも心筋炎の報告頻度は低いとされています。

子宮頸がんの現状

日本では毎年、約1.1万人の女性がかかる病気、さらに毎年、約2,900人の女性が亡くなっています。

患者さんは20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう(妊娠できなくなってしまう)人も、1年間に約1,000人います。



HPVワクチンを接種した後も、ワクチンでは予防できない型のHPVによる病変を早期発見・治療するために子宮頸がん検診を受診することが大切です。20歳を過ぎたら定期的に子宮頸がん検診を受けましょう。

